



相談役 松井勝美 氏

株式会社 サンエムカラー 様

<http://www.sunm.co.jp>

本社：京都市南区吉祥院嶋櫻山町37

TEL. 075-671-8498

印刷事業部：京都市南区吉祥院嶋野間詰町2

TEL. 075-671-8438

創 業：1984年9月

代表取締役社長：松井一泰

相談役：松井勝美



伝統と先進性を高度に融合、 LED-UV の即乾印刷で美術印刷の新次元に挑戦。

株式会社サンエムカラーは、美術印刷の分野で日本有数の印刷会社である。写真集・図録・書画のレプリカなどの、企画、撮影、編集、印刷、製本仕上げにいたるまで、独自の技術とノウハウを生かした制作でお客様からの高い信頼を得ている。色にこだわる同社が導入したのが、LED-UV 乾燥装置搭載の V3000LX-5 であった。その導入理由と成果について、松井一泰社長と松井勝美相談役、谷口倍夫専務取締役にお聞きした。

色へのこだわりで 高いお客様評価が定着

伝統と文化の街、京都。ここ京都市に美術書、写真集、書籍出版などの高級美術印刷で、日本全国でも指折りの実績を誇る、株式会社サンエムカラーがある。他社の追従を許さない、高い印刷品質をバックボーンに、日本はもちろん、世界の著名な作家達からの厳し

い要求に応えて、お客様の満足を実現している。作家のこだわりにも、一切の妥協をせず応えてきた思いについて、松井相談役はこう語る。「出版各社の図録や書籍、美術館の展覧会ポスターなどの美術印刷をメインに制作させていただいています。美術印刷では色をきちんと見る目と、それを印刷で確実に表現する確かな技術力が必要です。長年

にわたってハイエンドの美術印刷に携わってきて、そうしたニーズに確実に応えてできる高い技術力を培ってきました。その技術の一つとして FM スクリーンと連携した高濃度の印刷の導入があります。お客様の思いやこだわりを紙で伝える技術の開発に長年にわたってこだわって成果を出してきました。」美術印刷の再現性を追求する同社にとって、

次なる課題として取り組んできたのがスプレーパウダーの削減であった。

「当社では印刷の再現性を重視し、通常より高い濃度の印刷を行っています。インキをピラミッド状に高く盛って、印刷の艶を出す手法です。これにより写真集など、ベタの艶や発色が格段に良くなります。しかし、反面、裏付きがしやすく、その防止のため、どうしてもパウダーを多用することになります。パウダーは作品の仕上がりにも影響がある上、環境面でも良くありません。また、パウダーを落とすために、から通しのための印刷ユニットを使うなど作業面でも非効率的でした。」(松井相談役)

そのようなときに、目をつけたのが LED-UV による即乾印刷だった。LED-UV



LED-UV乾燥装置搭載 菊全判オフセット印刷機 V3000LX-5

WORKS

実績紹介



写真集や美術書など数々の作品に、美にこだわるサンエムカラーの技術が光る。

「100年も200年も残される印刷物の制作にたずさわっていきたい」と、松井社長。



代表取締役社長 松井 一泰 氏

機の導入のいきさつについて松井相談役は次のように語る。「リョービさんから2008年にLED-UV機が発表されて、強い関心を持ち、調査と研究を続けてきました。LED-UV機についてはパウダーレスの印刷はもちろん、当社のセールスポイントの一つである、高濃度の印刷に対応できること。また、ドライダウンが少ないため、色校正とほとんど変わらない本紙が得られるなど、従来の油性印刷機にない優れた特長がありました。これからはLED-UVの時代にきつとなるという実感がありました。油性機とLED-UV機ではメカニズムが根本的に異なります。LED-UV機の導入にあたっては、LED-UV機として実績があり、当社の高度な色再現の要求に確実に対応できる菊全機のV3000シリーズを選定しました。」

2015年2月、LED-UV乾燥装置搭載の菊全判印刷機V3000LX-5が導入され、稼動が始まる。導入機は印刷ユニット間で移動できるインターデッキUV乾燥装置を装備した特別仕様機だ。3Dレンチキュラー印刷や、クリアファイルなどの将来の特殊原反への対応を見込んでいる。また、美術関係だけでなく一般印刷など幅広い仕事に対応できる、薄紙と厚紙の両方に対応する兼用印刷機となっている。

導入を振り返って同社の松井社長は、「LED-UV機を導入した時、ちょうど当社では期末の繁忙期を迎えていましたが、予想以上にLED-UV機が早く立ち上がり、この時期を無事乗り切ることができました。その後も安定して稼動を続けています。」また、LED-UV機の印刷品質についてもクライアントから高い評価をもらっているという。「新しいUV印刷の技術ということで作家の皆さんも、多少、疑心暗鬼のところがありましたが、立会いなどで印刷物を見てもらう中で、評価が変わりました。色の乗り、重厚感



モノクロ4度刷りで深みを追求した印刷。LED-UV機ならではの表現力に大きな感銘を受けている。

が優れていてインパクトの高い刷り上がりとなっています。作家の方にもLED-UV機の良さをわかってもらえるようになりました。今では、逆にLED-UV機を指定されるケースも増えています。つい、最近も著名な写真家の写真集の印刷を担当させていただきました。モノトーンのモチーフで非常に難しい絵柄でしたが、LED-UV機できちんと再現することができ、写真家の方も大変喜ばれました。」(谷口専務)



LED-UV機での印刷指定が増えています。(谷口専務)

固定観念を破り、さらなる飛躍へ

経営は「温故知新」が大切とする松井相談役。古き良き伝統や技術は大切にしながら、革新を続ける企業姿勢である。「今、カラーマネジメントの技術が進んでいて、どこの印刷会社で印刷してもそこそこ同じような品質の印刷ができる環境が整ってきました。しかし、我々はこれだけでは、不十分だと考えています。価格競争に巻き込まれない、独自の印刷サービスの提供が必要です。そのために

当社では長年のオフセット印刷の技術を核として、先端技術のLED-UVを組み合わせ、新しい美術印刷の形を作ることができました。LED-UV機という新しいツールを得て、作家さんの要望にも徹底的にこだわっていける体制ができました。」とLED-UV機による新しい取り組みの成果を松井相談役は語っている。

心を紙面に伝える印刷を 伝承していきたい

印刷業界はますます二極化が進むであろうと言う松井社長。印刷通販に代表されるような、短納期かつローコストの印刷サービスと、同社が進めるような印刷品質にこだわったハイエンドな印刷サービスだ。これはお客様と対面しながらお客様の要望にマッチする印刷を追求するサービスのことである。「当社はいかにお客様の意向を取り入れて、作品に表現できるかということを追求してきました。今後もこの技術をしっかり伝承していきたいと思っています。京都発の伝統的な印刷物、捨てられない印刷物をつくり続けていきたい。これを実現するのがLED-UV機だと思っています。印刷業界はデジタルの情報産業におされて少し停滞ムードがありますが、“サンエムカラー”のブランドをさらに高め、将来に渡って夢がある印刷会社に育てていきたいと思っています。」(松井社長)

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
西日本営業部 鶴谷 修

美術印刷の分野で日本有数のお客様に印刷機の性能をご納得いただくため、当社の本社工場に何度もお越しいただき印刷確認をしていただきました。美術印刷のノウハウをご指導いただきながら最適な印刷機の構成を提案しました。

